

2025年6月17日

「第26回 物流環境大賞」において「大賞」を受賞

当社は、一般社団法人日本物流団体連合会主催の「第26回物流環境大賞」において、下記の通り、「大賞」を受賞しました。このほか7つの取り組みが、それぞれ「サステナブル活動賞」（1件）、「日本物流記者会賞」（1件）、「奨励賞」（5件）を受賞しました。

これ以外にも、貨物鉄道輸送を利用した取り組みは複数受賞しており、これは今回の受賞各社が、持続可能な物流体系の構築を目指し、環境特性や物流効率性に優れた貨物鉄道輸送を積極的に利用され、その取り組みが高く評価されたものです。

当社では、今後とも、「JR貨物グループ長期ビジョン2030」に掲げた4つの価値の一つである「グリーン社会の実現」を目指し、持続可能な社会の実現に向け取り組んでまいります。

【大賞】

青森県産りんご モーダルシフトの取り組み

受賞者	・つがる弘前農業協同組合 ・日本通運株式会社仙台支店ロジスティクス第二部 青森・大館物流事業所 弘前営業課 ・日本通運株式会社事業統括本部通運部 ・日本貨物鉄道株式会社東北支社北東北支店（青森）
概要	JA つがる弘前のりんご輸送について、トラックから鉄道輸送への大規模なモーダルシフトを実現。同組合のりんごはブランド力を活かして全国各地に出荷されており、その遠距離輸送の安定性を将来にわたって確保していくため、荷主・物流事業者が一体となってこの取り組みを推進。北海道から九州に至る遠距離の輸送比率が高いため、CO2 削減効果も高く、また、鉄道の輸送障害に備え日本通運の Sea&Rail 輸送網も活用して関西→九州間で船舶を一部利用。



荷役作業の様子

【サステナブル活動賞】

冷凍 31ft コンテナ利用による環境に優しく持続可能な鉄道輸送へのモーダルシフト

受賞者	・博多運輸株式会社 ・株式会社ヒューテックノオリン ・株式会社日清製粉ウェルナ ・株式会社ナカムラロジスティクス ・ロイヤル株式会社 ・日本貨物鉄道株式会社
概要	関東～九州間の冷凍食品輸送において、2つの荷主のマッチングにより往復でのモーダルシフトを実現した案件。博多運輸が仲介役となり、貸切輸送で往復とも冷凍食品を輸送している珍しいケース。鉄道輸送障害時には、鉄道コンテナをトラックでそのまま輸送し、中間地点でコンテナを載せ替える（九州発トラックは九州に折り返し、関東発トラックは関東へ折り返し）トラック代行輸送スキームを確立。

【日本物流記者会賞】

環境負荷低減プロジェクト モーダルシフトによるパッケージ製品輸送の取り組み

受賞者	・佐川急便株式会社 筑紫野営業所 ・株式会社平野屋物産 ・全国通運株式会社 ・日本貨物鉄道株式会社 九州支社
概要	印刷物（食品等の充填前のパッケージ類）のモーダルシフト案件。発・着地ともに、貨物駅の近傍であることを活かし、80%以上の CO2 削減を実現。トラック輸送と比べて輸送日数は伸びるものの、荷主の理解・協力を得て取り組んだもの。トラックよりコンテナの方が積載量大きいことも輸送の効率化に寄与。

【奨励賞】（5件）

・環境負荷低減への挑戦：中距離帯大量貨物輸送の拡大

ー現在そしてこれからの世代の人々のためにー

受賞者	・ネスレ日本株式会社 ・日本貨物鉄道株式会社 ・全国通運株式会社 ・JR貨物ロジ・ソリューションズ株式会社 ・静岡通運株式会社
概要	ネスレ日本島田工場から中国・四国地区向け製品輸送の大規模モーダルシフト案件。同工場から関西地区向けには、既に 2024 年 2 月から鉄道にモーダルシフトされており、これを拡大・発展させた取り組み。関西地区向けも合わせて、多数の貨物列車に分散して輸送するため、関係者間でのリードタイム・賞味期限・輸送遅延などの情報共有には、DX も活用。

・株式会社なとり CO2 排出量削減に向けた鉄道へのモーダルシフトの取組み

受 賞 者	・ 佐川急便株式会社 赤羽営業所 ・ 佐川急便株式会社 東京本社 ・ 株式会社なとり ・ 大宮通運株式会社 ・ 日本貨物鉄道株式会社
概 要	荷主が CO2 削減に取り組む中で、物流など「スコープ 3」への対応策として、埼玉地区の工場および倉庫から九州地区向け製品の輸送を鉄道にモーダルシフト。2 か所に分かれている集荷場所を、従来は 2 台のトラックで同時刻に集荷していたが、荷主の協力を得て集荷時間をずらし、鉄道コンテナ 2 個を積載した 1 台のトラックでの集荷に変更。鉄道外（集荷・配達）の部分でも CO2 を削減。

・環境／品質への取組み トラック輸送からモーダルシフト輸送への挑戦

受 賞 者	・ 株式会社 再春館製薬所 ・ 佐川急便株式会社 熊本営業所 ・ 佐川急便株式会社 本社 ・ 西九大運輸倉庫株式会社 ・ 日本貨物鉄道株式会社 九州南部支店
概 要	荷主の環境に配慮した経営への取り組みに加え、物流の 2024 年問題への対応として、熊本工場から横浜地区へのモーダルシフトに取り組んだ案件。10 トントラックの貨物を 12ft 鉄道コンテナへモーダルシフトする場合、3 個以上のコンテナが必要となるケースもあるところ、試験輸送を繰り返して積載方法を工夫し、コンテナ 2 個での輸送を実現。

・鉄道輸送×トラック輸送で実現する

業務用厨房機器の次世代型モーダルコンビネーション物流

受 賞 者	・ タニコー株式会社 ・ 鴻池運輸株式会社 ・ トランコム株式会社 ・ 日本貨物鉄道株式会社
概 要	福島地区から福岡地区向けの業務用厨房機器の 31ft コンテナによるモーダルシフト案件。集荷場所から東京貨物ターミナル駅までトラックで持ち込み、「トレインクロスドック*」を利用することで、集荷場所と貨物駅が 100km 以上離れているモーダルシフトのスキームを構築。 荷姿が様々であるため、熟練が必要な積込作業がハードルだったが全社的に作業の標準化を図り解決。 *東京貨物ターミナル駅構内「東京レールゲート WEST」でトラックからコンテナに積み替えを行う鴻池運輸・トランコムのサービス

- ・循環型社会創生に向けた不燃性フロンガス回収・再生工程における、
鉄道コンテナ輸送へのモーダルシフトによる環境配慮型プロジェクト

受 賞 者	・ A-Gas Japan 株式会社 ・ 日本フレートライナー株式会社 ・ 日本貨物鉄道株式会社 ・ 日本石油輸送株式会社
概 要	代替フロンガス回収・再生の行程のモーダルシフト。事業そのものが、回収・再生という循環型社会の一翼を担っており、環境負荷の小さいサプライチェーンを模索していたため、鉄道を選択。保冷機能を持つ専用コンテナを使い、自社ラッピングを施して取り組みをアピール、さらに長距離輸送による交通事故と荷役事故リスクを軽減出来ることや、輸送ロットが鉄道コンテナに合致していたことも取り組みの動機になった。鉄道コンテナにシフトしたことで全国各地から回収可能になり、回収箇所の選択肢も増加。

※「物流環境大賞」は、一般社団法人日本物流団体連合会が主催する、物流部門における環境保全の推進や環境意識の高揚等を図り、物流の健全な発展に貢献された団体・企業または個人を表彰する制度で、今回で 26 回目となります。

「第 26 回物流環境大賞」の受賞者

(一般社団法人日本物流団体連合会 2025 年 6 月 13 日プレスリリース)

https://www.butsuryu.or.jp/20250613_2.pdf